

2. 留学するにあたっての心構え

みなさんはどの程度「留学」を真剣に考えていますか。子どものころから描いてきた夢かもしれませんが、まだ漠然とした希望程度のものかもしれません。しかし、これから本当に留学をしようと思ったら、それなりの心構えが求められます。留学の制度の具体的な説明の前に、どのような態度で留学に臨むべきか考えておきましょう。

■ 留学とは自分の手で実現するもの

昔に比べて「留学」はとても手軽なものになりました。語学学校では、独自のプログラムを組んで多くの学習者をその言葉が話されている国へ送りこんでいますし、本屋へ行けば留学関係の書籍や雑誌を探すのは難しくありません。これらは、ビジネスとして留学を斡旋しているため、非常に手厚く面倒を見てくれますし、分からないことがあればすぐに現地スタッフが相談に乗ってくれるでしょう。しかし、「本来」の留学というのは、一から自分の足で情報を得て、自分の手で計画し、留学に必要な条件をクリアするために勉強し、頭をひねりながら複雑な書類を書き、現地でも自力で問題を解決していかなければならないような、自分で切り開く一種の「自己実現」であり、また「自己の成長の場」なのです。人が助けてくれるのを待っているのはダメ、強い意志と自立心が求められます。まずは「留学とは何とかなるものではなく、何とかするものである」ということを肝に銘じておきましょう。

■ 新しい体験への貪欲さ

「留学したいけど一年も故郷から離れると寂しくなりそう」なんて思っている人もいるかもしれませんが、ホームシックにかかる人は少なからずいます。しかし、考えてもみてください。寝ていても過ぎていくのが時間です。それに時間の感覚というのは主観的なもので、毎日刺激を求めて過ごしていたら半年や一年なんてあっという間に過ぎ、イヤでも帰らなければいけない時はやってきます。ホームシックにかかる暇なんかありません(仮に寂しくなっても、今では電話もネットも手軽に使えます)。

人にもよりますが、特に日本人は知らない人とすぐに打ち解けることができず、妙に構えたり、自分の意見を言ったりすることに抵抗感を感じるということも少なくありません。そういう「美德」が必要なこともありますが、留学中ではそういう消極性がせつかくの留学の価値を半減させてしまうことになりかねません。

くよくよしながら毎日を過ごすより、「旅の恥は掻き捨て」ぐらいに思って、留学中にしかできない体験をいっぱいし、自分の幅を広げていくことが大切です。先に「留学とは何とかなるものである」と書きましたが、逆に、現地ではあまり神経質にならず、ときには「何とかなるさ」という大胆さも必要なのです。萎縮することなく、新しい体験を求め、貪欲に動きましょう。

■ 「違い」への寛容な態度

今日のように流動性の高い社会においては、国内にいても身の回りに「異文化」はたくさんあります。しかし、留学するという事は、「異言語」を使いながら見知らぬ土地へ足を踏み入れることです。そこでは「自分の常識」は「みんなの常識」とは限りません。国内では体験できない様々な「驚き」や「違和感」に遭遇することもあります。そんなとき、「どうしてこんなばかげたことをするのだろう」とか「この人たちは遅れているな」といった短絡的な判断をするようでは、留学の意味はありません。

もしそんな「異質性」に出会ったら、どうしてこの人たちはそのように考え、行動するのだろうか、と問うてみましょう。どんなに不合理に見える行動でもその背景には、その人たちなりの合理的な価値観があります。そのような文化的背景を理解しようとするところから異文化理解は始まるのです。

■ 外から「自己」を見つめる視点

誰でも自分の顔を直接見ることはできません。自分がどんな姿をしているのか、どのように見られているのかを確認するには、自分を外から眺めるための「鏡」が必要です。異文化を理解することは、自分を見つめる「鏡」を手に入れることでもあります。

留学をする最大のメリットは、「自分の常識を相対化できること」です。先述のように、異質性と出会うことで、いかに自分が「井の中の蛙」であったのかが分かります。留学先の新聞では日本がどのように扱われ、日本国内の新聞とどのような違いがあるのか。その国の歴史観が日本で習った歴史とどのようにズレているのか。もし、そのような違いがあるのなら、それはなぜか。留学という機会に、自国、自文化、そして自分自身を見つめてみましょう。きっと大きな発見があるはずです。

■ 安全への配慮を

最後に現実的な問題です。最近では日本も治安が悪くなったとは言いますが、それでも世界的に見ればまだ安全なほうです。また、慣れた日本での生活では、安全なところと気をつけなければならないところの勘が働きます。しかし、他国に行くとき必ずしもそうはいきません。ところ変われば、キャンパスでも安心できないという場所もあります。日本での感覚のまま過ごしていると、思わぬところに落とし穴があり、最悪の場合は命を落とすことも考えられなくはありません。特に留学中の休暇期間中に旅行するときなど、油断せず、安全に対する最低限の配慮は心掛けましょう。

連携推進課では、年2回（夏休み前、春休み前）外部講師を招いて海外渡航の危機管理セミナーを開催しています。短期・長期にかかわらず、海外へ渡航する方は、早めに参加して下さい。詳細な開催連絡は、学生センターの掲示版にて通知します。

大抵の場合、「留学」の機会なんて人生で一回あれば多いほうでしょう。その一回の留学を実現させるのか、夢で終わらせるのか、成功させるのか、実のないものに終わらせるのか、どれだけ自分を成長させるのか、何も変わらないまま帰るのか、すべてはみなさんの手の中にあります。高い志気を持ち、是非とも自分自身の手で大学生活の「メインイベント」を実現させ、「とびっきり」充実した留学にしてください！

【外務省海外安全ホームページ】

(URL)

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

(QR コード)

